



かもめ広場だより VOL. 10

2018年9月発行
 一般社団法人横須賀市医師会
 在宅医療推進連携拠点「かもめ広場」
 〒238-0005 神奈川県横須賀市新港町 1-11
 ☎ 046-824-6430

在宅医療・介護連携ノート「よこすかリンクパスポート」の活用について

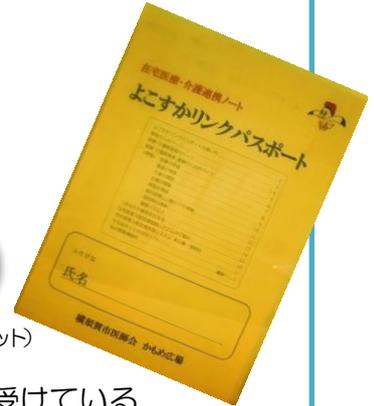
在宅医療・介護連携ノート「よこすかリンクパスポート」改訂版を発行しました。これは、在宅患者さんの意向に沿った適切な医療・介護を提供するための情報共有ツールで、かかりつけ医が患者さんに発行し、患者さんはベッドサイド等に保管します。医療介護関係多職種をはじめ、緊急時に対応する救急隊や警察にも周知しています。ぜひご活用ください。

《発行対象者》

1. 新規に在宅医療を開始する全ての患者さん
2. 既に在宅医療を実施している患者さんへは以下の基準で発行されます
 - ・複数の医師が診療している
 - ・各種介護サービス、訪問看護を利用している
 - ・症状が重篤で緊急の連絡・情報共有の必要性が予測される
 - ・介護者が日中または夜間不在になることがある
 - ・緊急搬送が予測される
 - ・歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、栄養士などによる居宅療養管理指導を受けている



(所持を示すマグネット)



- ★ 活用を希望する患者さん・関係多職種の皆さんは、かかりつけ医にご相談ください。
- ★ かかりつけの医師は、必要部数をかもめ広場にご連絡いただければ、お送りいたします。

街角在宅医療講座について

市民の皆様が「在宅医療」についての理解を深め、安心して在宅医療生活を送ることができるよう、街角在宅医療講座を実施しています。医師が講師となり在宅医療に関する知識を分かり易く伝えるこの講座は大変好評で、平成24年度から合計48回開催し2360名の方にご参加いただきました。

街角在宅医療講座の主な内容

- ・なぜ今在宅医療なのか
- ・在宅医療とは…ここまでできる在宅医療
- ・最期まで自宅で過ごすために…今から準備できること
- ・在宅医療とかかりつけ医…かかりつけの医師を持つ
- ・今を充実して生きるために…健康寿命を延ばすための心とからだの管理

講座の感想（アンケート調査から一部抜粋）

- ・在宅医療の現状を知る良い機会になった
- ・住み慣れた家で最期まで暮らせることがわかり安心した
- ・在宅医療が必要な時代が確実に来ていることを知った
- ・近くに在宅医療を行う診療所がある事を知り少し安心した
- ・家族とともに人生の最終章の迎え方を考える機会を得た



在宅医療ネットワークミーティング 開催！

6月24日(日)に横須賀市医師会館において、在宅医療ネットワークミーティングを開催しました。今年は『いのちの授業から見える寄り添う力』をテーマに、講義とデモセッションを行い、96名の参加がありました。



多職種合同研修会 開催！

6月21日(木)に横須賀市生涯学習センターにおいて、多職種合同研修会を開催しました。

今年は『その人に合った療養の場を多職種で考える！～患者・家族の意思決定をどう支える？～』をテーマに、170名の参加がありました。



在宅療養生活を支援する「後方支援ベッド確保」事業について

平成30年9月4日(火)この取り組みに関する説明会を開催し47名の参加がありました。活発な意見交換により後方支援病院と協力病院の機能と役割が明確になり、バックベッドの活用を進めることにより在宅療養を支援する体制が強化できることが確認できました。

◆ 後方支援病院と協力病院による入院体制の整備「在宅患者入院支援登録システム」

在宅患者さんが、急な病状悪化や検査・治療のための入院を必要とするためのために、入院支援協力病院に必要な情報を事前に登録しておくことによりタイムリーな入院を可能にし、安定した在宅療養を支援するものです。

- ・ 後方支援病院：横須賀市立うわまち病院、衣笠病院、横須賀市立市民病院
- ・ 協力病院：湘南病院、自衛隊横須賀病院、聖ヨゼフ病院、横須賀共済病院、よこすか浦賀病院、パシフィックホスピタル、久里浜医療センター

★利用する時は、かかりつけ医にご相談ください。案内と申込書・登録証は、よこすかリンクパスポートに備えてあります。

◆ 有床診療所を活用した「在宅療養体制整備（後方ベッド確保）に関するモデル事業」

この事業は、神奈川県同胞援護会衣笠診療所の診診連携のためのベッドをオープンにし、診療所医師と在宅医師が連携して在宅患者さんを診るもので、以下のような活用ができます。

- ・ 自宅での看取りが困難な患者さんが入院し、在宅医が立ち会いのもと療養することができる
- ・ 一人暮らしの患者さんが急変時の入院・看取りの場として活用できる
- ・ 介護する家族の状況を勘案し、レスパイトも視野に入れた入院ができる

★利用を希望する医師は、登録医として事前に手続きが必要ですので、神奈川県同胞援護会衣笠診療所にお問い合わせください。TEL 046-851-2137



在宅医おもやま話

在宅医療をしていると急に具合が悪くなり入院が必要になる患者さんにあたります。以前だとどこの病院が入院させてくれるのか、あちこち電話しましたが、最近はそんなことにはなりません。病院の受け入れが良くなっているのです。病院側が我々に歩み寄ってくれているのです。病院と在宅医と介護職が互いに相手を理解して歩み寄ることが地域のために必要なことだと実感しています。

11月には横須賀市と共催して医療職向け介護保険を知るためのセミナーを企画しています。医療職が介護職を理解する良い機会だと思います。相互理解を深めて行きたいですね。

小磯診療所 院長 磯崎 哲男

